

明日香村人口ビジョン 明日香村第3期総合戦略



明日香村

目次

I	人口ビジョン	1
	1 明日香村人口ビジョンの位置付けと対象期間	2
	2 人口の現状分析	3
	3 過去の推移に基づく将来人口の推計と分析	7
	4 明日香村の目指すべき人口の将来展望	9
II	総合戦略	13
	総合戦略の策定趣旨	14
	基本戦略1：村民が「健康に暮らし、次代を担う子どもたちが育つ村づくり」	15
	基本戦略2：全村まるごとを活用した「活力ある村づくり」	17
	基本戦略3：明日香らしいたたずまいを感じられる村づくり	19
	横断的戦略：社会基盤づくり	21

I 人口ビジョン

1 明日香村人口ビジョンの位置付けと対象期間

(1) 明日香村人口ビジョンの位置付け

明日香村人口ビジョンは本村における人口の現状分析を行い、人口に関する村民の認識を共有し、今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望を示すものです。この人口ビジョン（改訂）は、2020年（令和2年）の国勢調査の結果を踏まえて更新したものです。

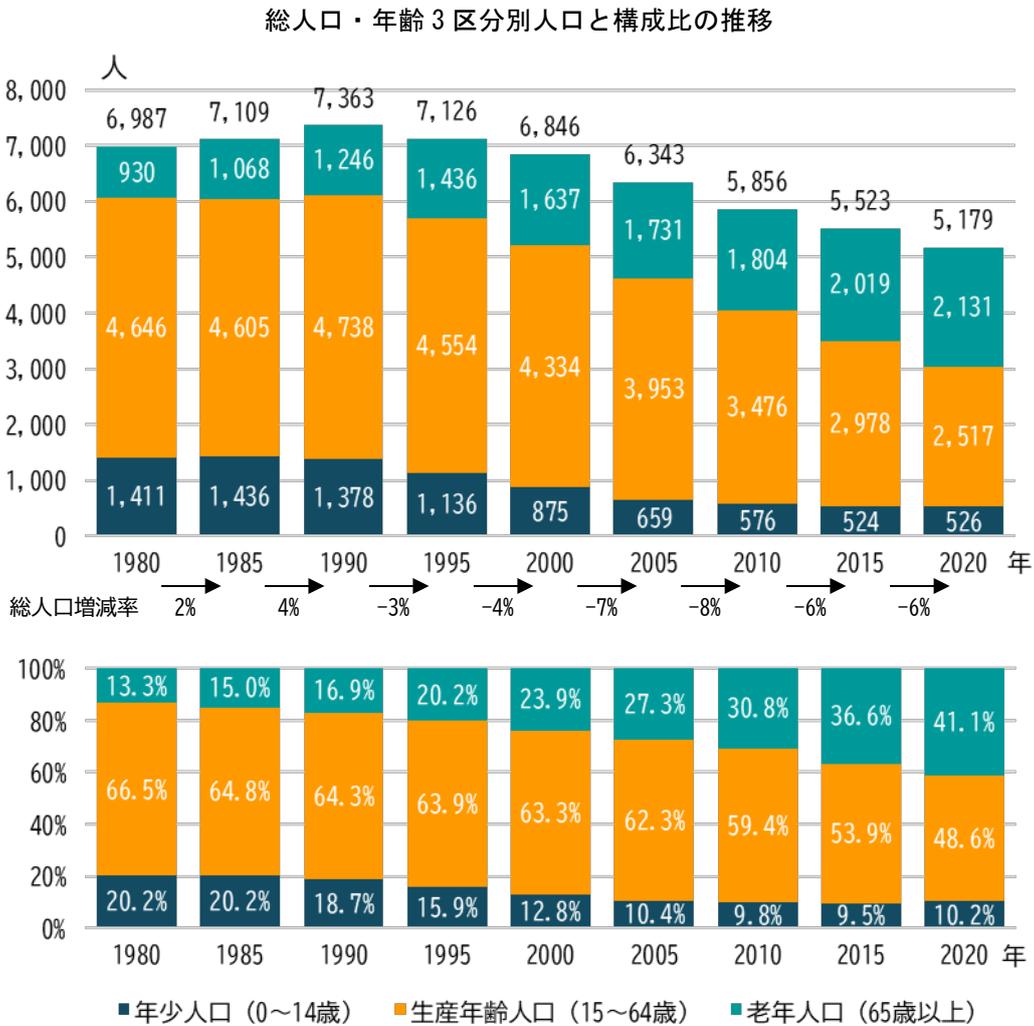
併せて策定する「第3期明日香村総合戦略」において、まち・ひと・しごと創生の実現に向けて効果的な施策を企画立案する上で重要な基礎として位置付けます。

(2) 明日香村人口ビジョンの対象期間

明日香村人口ビジョンの対象期間は、2060年を基本としたうえで、さらに将来的な明日香村の地域の維持を図っていくことを念頭に長期的な視野を持たせます。

2 人口の現状分析

(1) 人口の推移

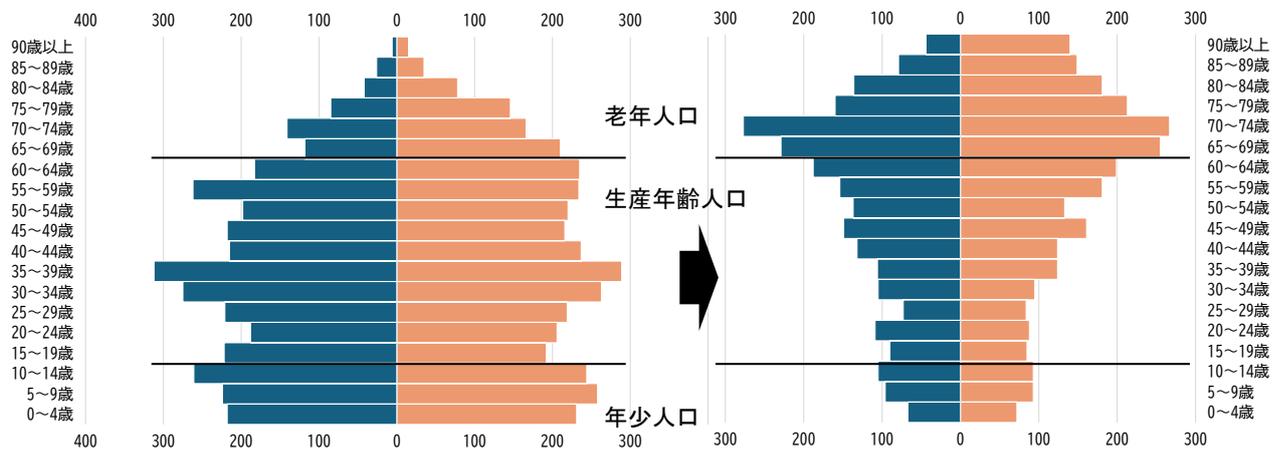


資料：国勢調査

- 本村の総人口は、1990（平成2）年をピークに減少が続いています。総人口の減少率は、近年は5年平均で6%となっています。
- 65歳以上の人口が増加しており、高齢化が進んでいる状況が分かります。
- 高齢化率※は約41%で、生産年齢人口の比率約49%と非常に近い比率になっています。
- 年少人口は、減少していますが、年少人口の比率は、約10%と安定しています。

(2) 人口構成の変化

人口ピラミッド（左：1990年、右：2020年）

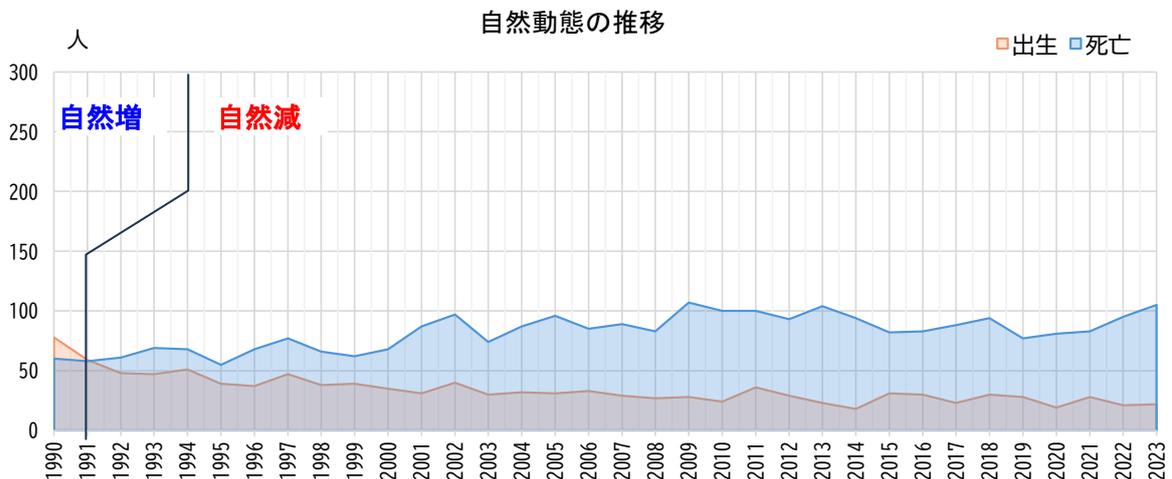


資料：国勢調査

- 本村の人口が最も多かった1990年と2020年の人口ピラミッドを比較すると、形状が「釣鐘形」から変化し、第一次ベビーブーム世代（団塊の世代）の層の厚みが大きい形状となり、人口構成のバランスが悪いことが分かります。
- 少子高齢化に伴い、老年人口が増加している一方で、年少人口が減少している様子が分かります。
- 高齢者が増えることで、福祉や医療などにかかる費用が増大し、働き手・子育て世代と子どもが減少することで、経済・地域社会の衰退、村の将来の存続が懸念されます。

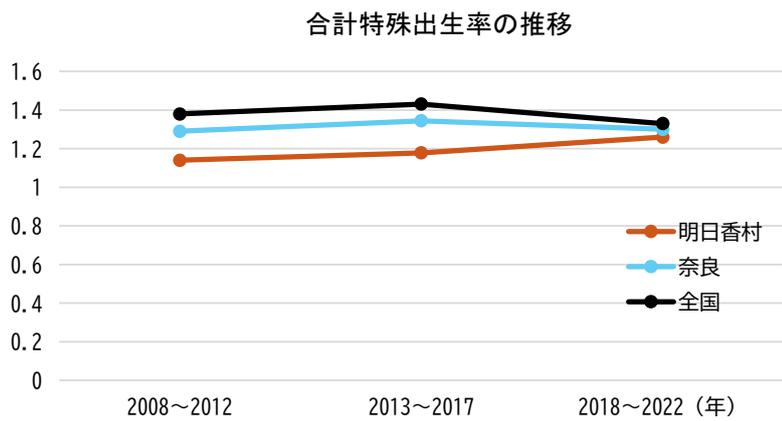
(3) 人口の動態

1) 自然動態(出生・死亡に伴う人口の動き)の推移



資料：明日香村

- 1991 年までは出生数が死亡数を上回っており、自然増の状態となっていました。
- 1992 年以降現在まで死亡数が出生数を上回っており、自然減の状態が続いています。
- 今後も自然減の状態が続いていくことが想定されます。

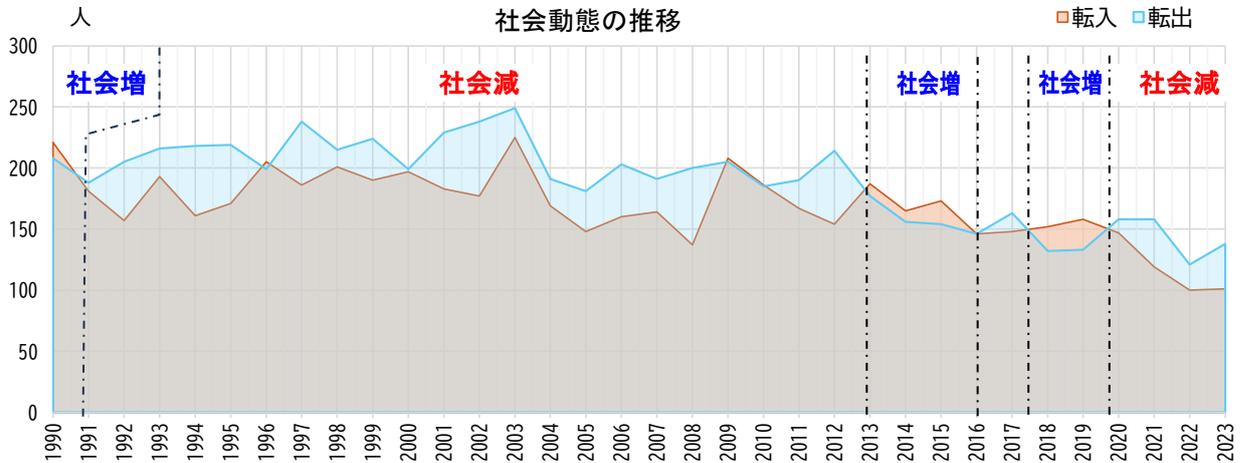


※合計特殊出生率とは、一人の女性が一生の間に生むとしたときの子ども数(推定)に相当し、15歳から49歳の女性の年齢毎の出生率を合計した数字です。

資料：人口動態保健所・市区町村別統計

- 2018 年から 2022 年の明日香村の合計特殊出生率*は 1.26 となっており、奈良県(1.30)及び全国(1.33)の数値より低い値となっています。

2) 社会動態(転入・転出に伴う人口の動き)の推移



資料：明日香村住民基本台帳

- 1991年までは概ね転入数が転出数を上回っており、社会増の状態となっていました。
- 1992年から2012年までは概ね転出数が転入数を上回っており、社会減の状態となっていました。
- 2013年～2015年、2018年～2019年は、社会増となりましたが、再び社会減の状態となっています。

年代別社会増減の状況

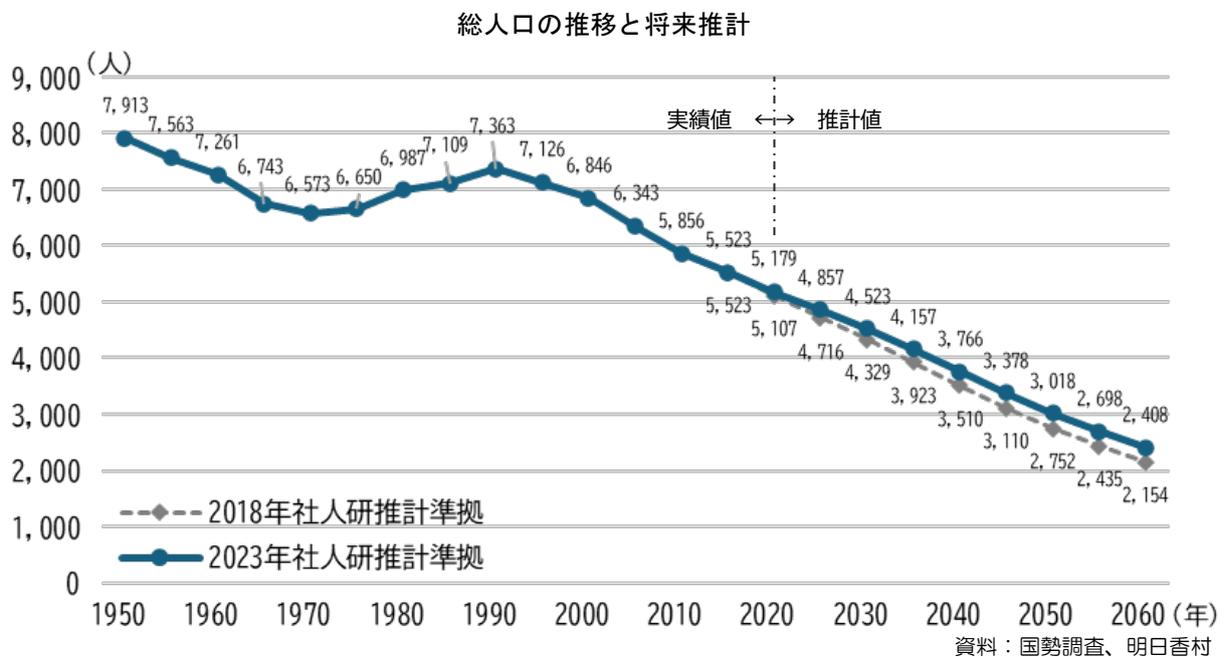


資料：明日香村住民基本台帳

- 年代別社会増減の状況を見ると、20歳代の若者世代の社会減の状態が続いている一方、30～40歳代の親世代と10歳未満の子どもに社会増がみられ、50歳代、60歳以上にも社会増がみられる年があります。

3 過去の推移に基づく将来人口の推計と分析

(1) 過去の推移に基づく将来人口の推計



【将来人口推計の概要（国立社会保障・人口問題研究所）2023年推計】

- 2020年国勢調査の人口を基準人口とした上で2005年から2020年の5年毎、3期間に観察された平均的な人口移動傾向を勘案し、5年ごとの将来の人口を推計。
- 5歳以上の人口推計は、将来の生残率^{※1}と将来の純移動率^{※2}の仮定値により推計。
- 0～4歳人口の推計は、生残率と純移動率に加えて、子ども女性比^{※3}及び0～4歳性比^{※4}の仮定値により推計。

※1 生残率とは、年齢x歳の人口が、5年後にx+5歳になるまで死亡しない確率のこと。

※2 純移動率とは、年齢x歳がx+5歳になる5年間の転出入超過数をx歳の人口で割ったもの。

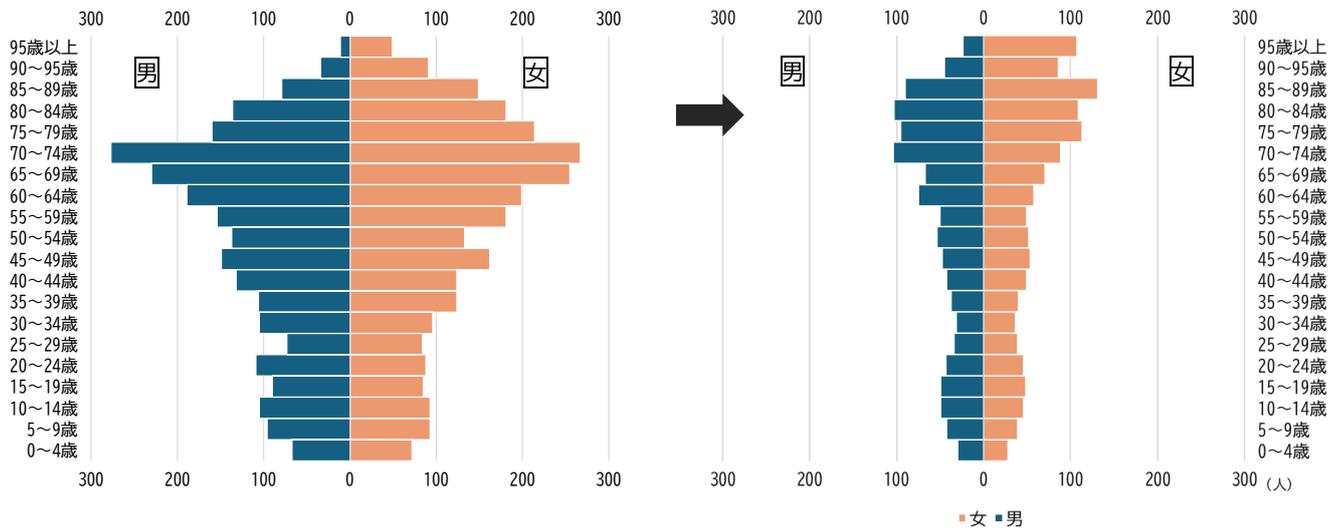
※3 子ども女性比とは、20～44歳女性人口に対する0～4歳人口の比のこと。

※4 0～4歳性比とは、0～4歳の人口について、女性の数を100とした場合の男性の数の比を指数で表したもの。

□国立社会保障・人口問題研究所による将来人口推計では、2015年以降も人口減少が続きますが、5年前の推計に比べると、総人口は2040年には約3,510人が約3,770人、2060年には約2,150人が約2,410人と、減少の幅が若干緩和しています。

(2) 過去の推移に基づく将来人口構成の変化

人口ピラミッド (左: 2020年、右: 2060年)



□2020年と将来推計となる2060年の人口ピラミッドを比較すると、少子高齢化の状況がさらに進行し、総人口が減少することに加えて、特に働き手・子育て世代と子どもの減少が著しい状況が想定されます。

□現在の状況が進むと、経済・地域社会の衰退、村の将来の存続が懸念されます。

4 明日香村の目指すべき人口の将来展望

(1) 将来展望の考え方

推計結果によると、総人口が減少することに加えて、働き手・子育て世代と年少人口の減少が想定されます。明日香村の歴史的景観を守り、地域社会を維持していくためには、進学や就業で転出した村民や明日香村に関心を持つ都市住民のUターンを、ハード・ソフトの一体的な対策により促進することで、高齢者から若者世代・子どもまでバランスのとれた人口構成を保ち、将来にわたって一定人口を維持していく必要があると考えています。

そのために、現状の「転入・転出の状況を改善（社会増をふやす）」することを目標とし、

特に、◆「30歳代+子ども」の定着・受入を積極的に進める

◆30歳代の予備軍である「20歳代」の定着・受入を進める

ことにより、将来的に3,200~4,000人程度の人口を目指します。

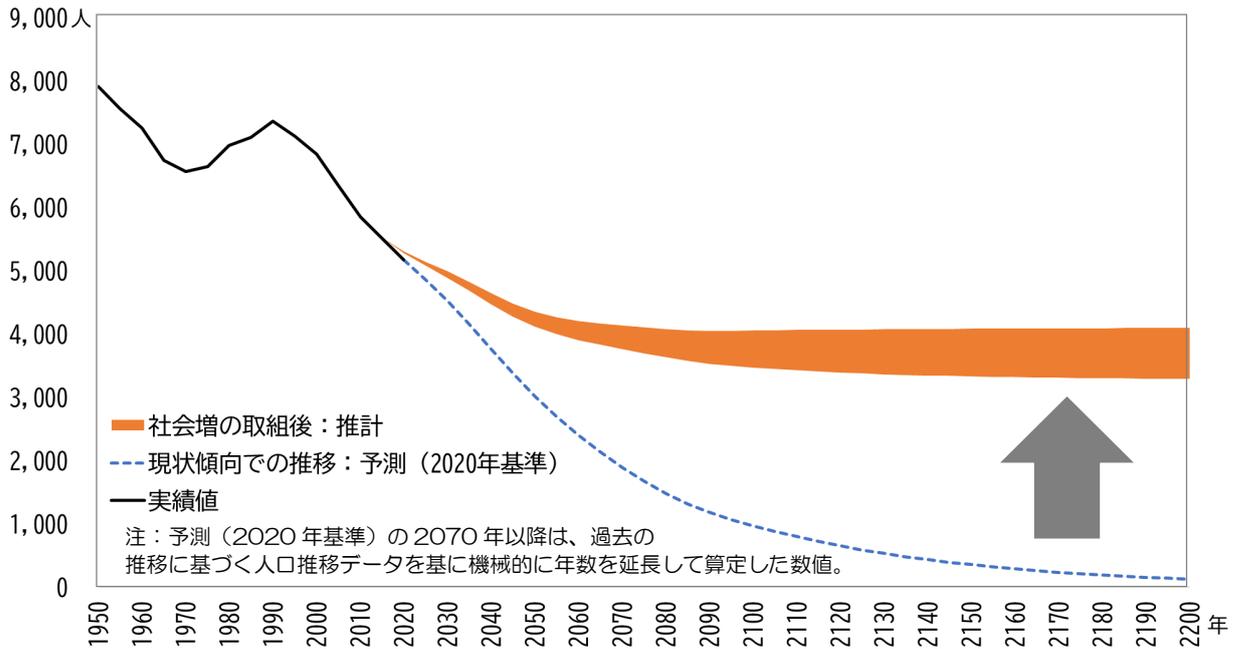
(2) 具体的な目標設定

具体的な目標値として、下記のとおり設定します。

『現状の転入・転出の状況にプラスして、転入増もしくは転出減となるよう
毎年30~40人上乗せする』

(3) 明日香村の目指す人口の将来展望

人口の将来展望

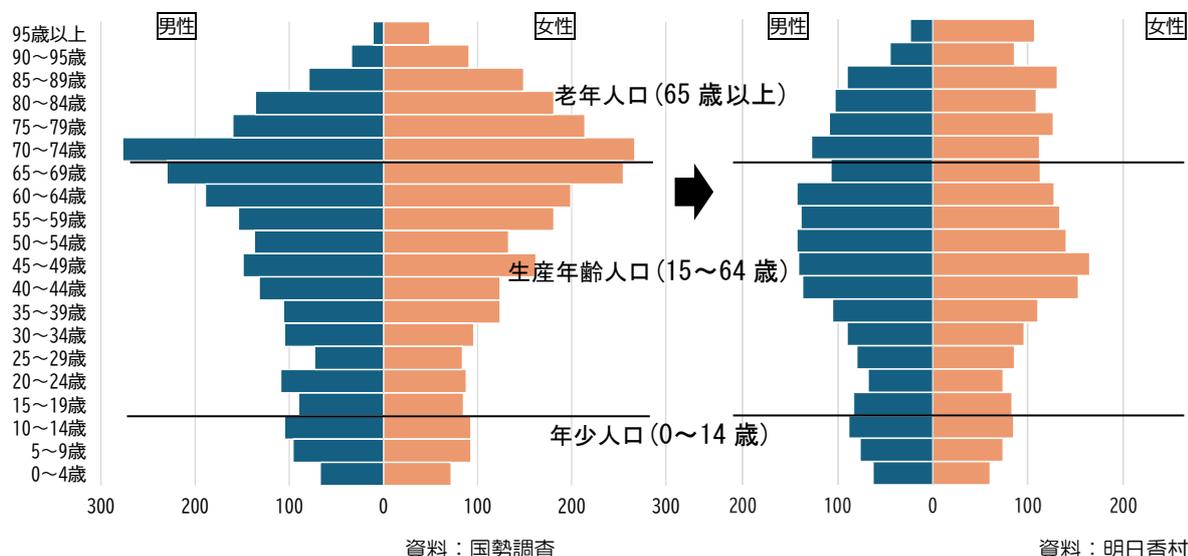


資料：明日香村

転入減・転出増の状況を改善する村の施策を推進して上記の目標値を達成することで、『将来的に、3,200~4,000人程度の人口で安定すること』を目指します。

なお、本ビジョンの対象期間としている2060年には、「4,100~4,500人程度の人口を確保」することを目指します。

人口ピラミッド（左：2020年、右：2060年）



□2020年と将来推計となる2060年の人口ピラミッドを比較すると、総人口は減少するものの、働き手・子育て世代と子どもの人数は一定数確保され、バランスのとれた人口構成になるものと想定されます。

前ページの将来展望（オレンジ色）は、2015（平成27）年度に策定した人口ビジョンを引き継いだもの。

「社会増での取組後」の推計は、2010年までの実績をもとに2010年基準で算出したもの。

【参考】2010年を規準とした将来展望と2020年規準との比較

2010年基準の推計では、下記①の計35人が毎年転入することで、将来展望の下限の人口を達成できた。

2020年基準の推計では、人口減少の改善傾向がみられた人口構成の影響、合計特殊出生率の改善もあり、下記の②でも将来展望の下限の人口を達成できる。

いずれも 男女計	ファミリー				若者		毎年の 転入数
	0~4歳	5~9歳	35~39歳	30~34歳	20~24歳	25~29歳	
① 2010年 基準推計	4人	3人	6人	8人	6人	8人	35人
② 2020年 規準推計	4人	4人	6人	6人	6人	6人	32人

※合計特殊出生率について：人口の将来展望グラフの下限は、2010年基準の出生率1.14（2008～2012年の平均値：明日香村）で将来人口として推計を行っている。

2020年基準の推計では、1.26（2018年～2022年の出生率：厚生労働省人口動態統計）を採用して算出を行った。

5 まとめ

本村の総人口は、1990年の7,363人（同年国勢調査）をピークに減少が続いており、2020年には5,179人まで落ち込んでいます。国立社会保障・人口問題研究所によると、2060年には総人口が2,408人となる見込みです。

年齢3区分別の人口動態をみると、年少人口（0～14歳）は1990年の1,378人から2015年には524人と減少の一途をたどっていましたが、2020年には526人と横ばいになっています。老年人口（65歳以上）は1990年の1,246人から2020年には2,131人と増加の一途をたどっており、高齢化がさらに進むことが想定されます。生産年齢人口（15～64歳）は、1990年の4,738人をピークに減少しており、2020年には2,517人となっています。

住民基本台帳による自然動態・社会動態を見ると、自然動態では、本村の総人口がピークであった1990年の出生数78名に対し、2023年には23名となっています。その一方で死亡数は2023年には103人と増加の一途をたどっており、出生者数から死亡者数を差し引いた2023年の自然増減は△80人（自然減）となっています。自然減の状態が続いており、今後も自然減の状態が続いていくことが想定されます。社会動態では、明日香法の規制が始まった1980年には転入者（310人）が転出者（203人）を上回る社会増（107人）、本村の総人口がピークであった1990年には転入者（221人）が転出者（208人）を上回る社会増（13人）でした。しかし、元々本村の基幹産業である農業の衰退や明日香法に伴う規制等により村外への転出者が増加し、2023年には62人の社会減となっています。このように、人口の減少は出生数の減少（自然減）や、転出者の増加（社会減）等が原因と考えられます。一方で、2013年～2015年や2018年～2019年には、社会増も見られる状況となっています。また、明日香村の年齢構造を見ると、団塊の世代の層のみの厚みが大きく、人口構成のバランスが悪いことが分かります。

今後も高齢者が増えることで、福祉や医療などにかかる費用が増大し、働き手・子育て世代と子どもが減少することで、経済・地域社会の衰退、本村の将来の存続が懸念されます。

本村の歴史的景観を守り、地域社会を維持していくためには、ハード・ソフトの一体的な取組及びその取組を村内外の方に広く知っていただくことにより、進学や就業で転出した村民や本村に関心を持つ都市住民のUターンを促進することで、高齢者から若者世代や子どもまでがバランスのとれた人口構成を保ち、将来にわたって一定人口を維持していく必要があります。

Ⅱ 総合戦略

【策定趣旨】

第3期明日香村まち・ひと・しごと創生総合戦略は、「人口ビジョン」において示した人口の将来展望のもと、基本戦略及び基本的方向をとりまとめたものです。

本村のまち・ひと・しごと創生に関する施策について、第5次明日香村総合計画に合致する施策を重点的・補完的に推進しながら、本村の歴史的景観を守り、地域社会を維持していくために必要な、高齢者から若者世代や子どもまでがバランスのとれた人口構成を保ちながら将来にわたって一定人口を維持し、我が国の律令国家が形成された時代における政治・文化の中心的地域であり、宮跡や寺院跡、古墳といった貴重な歴史的文化的遺産が村の全域にわたって数多く存在し、その遺産により、2026（令和8）年の世界文化遺産登録を目指している本村特有の価値を最大限に活用し、関係人口を受け入れながら、活力を維持する持続可能なまちの実現をめざして策定するものです。

【計画期間】

2025年度（令和7年度）から2029年度（令和11年度）までの5年間とします。

【基本戦略1】

村民が「健康に暮らし、次代を担う子どもたちが育つ村づくり」

(1) 基本的方向

- 「明日香村で子育てがしたい」ニーズに応えられる環境づくりに取り組みます。
- 子どもたちが郷土に誇りをもち明日香村を支える人になれる取り組みを進めます。
- 生涯を通じて、地域スポーツ活動や学ぶ機会を創出します。
- 健康寿命の延伸を図り、生涯健康・生涯現役の村づくりを進めます。

(2) 数値目標

指標	基準 (令和5)	目標 (令和11)
人口の社会増 (人/年)	-62	30

(3) 主な施策

1) 子育て

- ・就学前教育環境の充実
- ・安心して働ける子育て環境づくり（多様な保育サービスの提供など）
- ・「産む」「育てる」の支援（出産祝金・小中学校新入学祝金、「出産・子育て応援ギフト」、不妊治療に対する助成金の拡充、産後ケア、陣痛タクシー、児童手当の拡充、給食費の負担軽減）
- ・子育て情報の発信、相談体制の充実（デジタルによる健康管理の充実）
- ・妊娠期から子育て期にわたる切れ目ない支援（こども家庭センターなど）
- ・母子保健の充実（乳幼児健診・予防接種）
- ・学童保育、子供の預かり、子育て中の親子の居場所、交流機会の充実（マコリエ、みらいっ子ルーム など）
- ・地域食堂など多世代交流の場の創出

2) 教育・生涯学習

- ・明日香村立明日香幼稚園の認定こども園への移行
- ・幼・小・中一貫教育の推進
 - i 学力体力向上のための授業づくりの推進
 - ii コミュニケーション力を高める言語力・英語教育の推進
 - iii 地域と連携した郷土学習の推進

- ICT 教育環境の充実
- 快適で健康に学べる教育環境の整備（体育館の空調整備 等）
- 学びを支える教育体制の充実（多様性への対応、きめ細やかな教育 等）
- 地元食材を活かした安心・安全な学校給食の提供
- 総合型地域スポーツクラブの充実などスポーツ活動の推進
- 図書機能の充実や公民館講座など生涯学習機会の提供

3) 福祉

- 介護保険事業の円滑で安定的な運営
- 生活支援コーディネーターの充実による介護等サービスの提供
- 医療保険制度の受給者に対する福祉医療制度による支援
- 見守り強化や買い物サポートなどの地域住民による支え合い活動の推進
- 高齢・障害・子ども・生活困窮など世代や分野を超えた地域共生社会に向けた重層的支援体制の整備
- 在宅医療と介護の一体化による「トータルケアステーション」の体制整備
- 災害に備えた避難行動要支援者名簿の整備
- 地域団体や住民と協働した人権啓発・広報活動

4) 健康・医療

- 国民健康保険制度・後期高齢者医療制度の適正な運営
- 明日香村国民健康保険診療所による地域医療の確保
- 広域連携による一次救急医療（休日夜間応急診療）の確保
- がん検診など各種検診（健診）の受診勧奨
- 県立医科大学と連携した生活習慣病の発症及び重症化予防などの健康づくり事業
- 健康づくりの拠点となる健康福祉センターの適切な運営

(4) 重要業績評価指標 (KPI)

指標	基準 (令和5)	目標 (令和11)
小学校の1学年平均人数(人)	41	40
子育て支援ボランティア登録者数(人)	34	40
「授業が良くわかる」小学生の割合(%)	90	95
「授業が良くわかる」中学生の割合(%)	85	90
海外との交流事業に関わる中学生の人数(人)	19	80
楽スポ会員登録者数(人)	512	530
高齢者サロン開設数(カ所)	18	24
特定健診受診率(%)	40.6	60

【基本戦略2】

全村まるごとを活用した「活力ある村づくり」

(1) 基本的方向

○明日香ならではの資源を活かし、集い働き住みたくなる村づくりを目指します。

○明日香村の資産を最大限に活かし、「明日香まるごと博物館」づくりにより、体験・滞在・交流を通じて、観光振興により明日香村を元気にすることを目指します。

(2) 数値目標

指標	基準 (令和5)	目標 (令和11)
人口の社会増(人/年)	-62	30
観光来訪者1人当たりの村内消費額(円)	4,273	5,000
宿泊客数(万人/年)	0.7	5.0

(3) 主な施策

1) 農・林・商・工業

- ・ 農道や水路等の整備による営農基盤の改善
- ・ 農村 RMO 組織による関係人口受入れ体制構築
- ・ 農業を支える担い手の確保・支援
- ・ 農村を守るための獣害対策強化
- ・ 山林の機能維持や保全のための山林基盤整備の促進
- ・ 商業を活性化させるため村内企業等の育成と空き家等を活用した起業の促進
- ・ 小規模事業者の経営体質の改善やデジタル化に対応していくための支援

2) 観光振興・雇用創出

- ・ 明日香村の特性に対応した戦略的プロモーションと情報発信
- ・ 閑散期解消に向けたキャンペーン等の実施
- ・ 古民家や遊休空間などの有効活用と適切な土地利用
- ・ 飛鳥宮跡整備と連携した旧役場庁舎の活用
- ・ プロガイド人材の育成や滞在型・体験型観光プログラム開発など、観光を生業とする機会づくり
- ・ 観光と農林商工が連携した地域特産品の創出と流通経路の開発

- 明日香村の制度や風土に理解のある企業等の積極的な受け入れや官民連携組織の構築による関係人口創出
- デジタルなど新しい技術を活用したオーバーツーリズムの抑制や観光力の向上
- 歴史文化資源や観光拠点施設をつなぐ周遊手段の確保やインバウンド客を含めた来訪者が観光しやすい環境づくり

(4) 重要業績評価指標 (KPI)

指標	基準 (令和5)	目標 (令和11)
農業粗生産額 (億円/年)	6.7	7.0
鳥獣被害面積 (a/年)	228	150
民有林整備面積 (ha/年)	24	30
空き家活用事業所数 (件)	—	15
あすか宅配便掲載商品売上額 (百万円/年)	60	70
赤かめバス利用者数 (万人/年)	10.3	11.0
ふるさと納税額 (百万円/年)	24.6	100

【基本戦略3】

明日香らしいたたずまいを感じられる村づくり

(1) 基本的方向

- 本村の歴史的風土を適切に保存活用し、次世代に継承していくことを目指します。
- 明日香らしい文化を継承するとともに、明日香らしい新たな文化を創造していくことを目指します。

(2) 数値目標

指標	基準 (令和5)	目標 (令和11)
人口の社会増(人/年)	-62	30
観光入込客数(万人/年)	60	100
外国人観光客(万人/年)	1.6	10

(3) 主な施策

1) 歴史的風土の保存活用

- ・奈良文化財研究所や橿原考古学研究所などと連携した発掘調査の継続
- ・デジタル技術等も活用し、文化財調査により解明した価値のわかりやすい展示と情報発信
- ・埋蔵文化財等の本物を体感できる機会の創出や「見える化」の整備促進
- ・明日香の歴史的価値を高めるための世界遺産登録の推進や日本遺産の効果的な活用
- ・関係人口創出による歴史的風土保全活動
- ・農地・林地を保全するための戦略づくり(歴史的風土を持続的に保全するための農業戦略策定)
- ・世界遺産構成資産候補周辺や飛鳥宮跡から見渡せる空間の放棄された竹林整備
- ・自然環境や文化を活用した魅力の体験機会の提供
- ・生物多様性の保全
- ・建築物等の修景支援や大字景観計画などによる良好な集落景観の創出
- ・道路など公共施設整備における景観への配慮
- ・文化財の価値や歴史的風土を理解できる視点場の創出

2) 文化の継承と創造

- ・地域祭礼行事や伝承芸能が継承しやすい環境づくり
- ・明日香の匠展、明日香村文化祭などによる村民が、文化や芸術に関わる機会創出

- ・飛鳥アートビレッジや伎楽の再現など、新たな文化の創造
- ・文化協会等と連携した本村における文化の周知

(4) 重要業績評価指標 (KPI)

指標	基準 (令和 5)	目標 (令和 11)
明日香村についてとても誇りに感じる割合 (%)	35	40
ふるさと納税件数 (件/年)	1,317	1,600
里山整備面積 (ha)	—	3.0
景観保全活動ボランティア団体数 (団体)	5	10

【横断的戦略】

社会基盤づくり

(1) 基本的方向

- 定住したいと思える、地域の特性に応じた住みやすい環境づくりを目指します。
- 日頃から災害や犯罪・事故等への備えにより、安全・安心に暮らせる村を目指します。
- 「デジタルの力」を活用して社会課題解決に向けた取組みを進め、誰一人取り残されないデジタル共生社会の実現を目指します。

(2) 数値目標

指標	基準 (令和 5)	目標 (令和 11)
人口の社会増 (人/年)	-62	30

(3) 主な施策

1) 生活環境・定住促進

- ・空き家バンク制度の利用促進
- ・定時定路線による赤かめ周遊バスの運行と広域的な移動手段の確保
- ・周遊バスを補完するタクシー車両によるデマンド乗合交通の運行
- ・Wi-Fi や ICT などの通信環境の整備・充実
- ・行政手続きのオンライン化などデジタル化の推進
- ・橋梁の長寿命化計画による修繕や維持管理
- ・下水道のストックマネジメント計画による修繕や維持管理
- ・既存公共建築物の適正な管理活用
- ・安全安心な道路環境整備
- ・水道等の広域的な取組による安定供給
- ・リサイクル促進など適正な廃棄物の処理
- ・適正な土地利用による住宅地の形成促進

2) 安全・安心な暮らし

- ・村民・地域・警察・消防・自衛隊・医療と連携した危機管理体制の強化
- ・広域による常備消防組織の取組
- ・地域住民の参画による非常備消防（消防団）の取組
- ・自主防災組織の地域防災力の向上

- ・災害を未然に防ぐ急傾斜対策や河川・ため池等の整備
- ・防災拠点（避難所含む）の機能充実と公共施設の耐震化・長寿命化の推進
- ・住宅等の耐震化の促進
- ・地域と連携した交通安全や集落の防犯力の向上
- ・デジタル技術を活用した危機管理と安全・安心対策
- ・防災訓練等の非常時を想定した訓練

（４）重要業績評価指標（KPI）

指標	基準 (令和 5)	目標 (令和 11)
子育て支援アプリ登録者数（人）	268	400
図書室電子書籍数（本）	500	600
個人番号カード交付率（％）	78	95
空き家バンク成約数（戸）	－	50
新規住宅数（戸）	－	50
防災情報メール及び公式ラインサービス登録者数（人）	714	1,000
デマンド乗合交通アプリ登録者数（人）	952	2,000

